

平成 22 年度 海外研修派遣 報告書

神戸大学医学部附属病院 京谷勉輔

世界の医療を牽引するスタンフォード大学において研修を受ける機会を頂いた。私が今回の研修に参加した目的は、研修内容に「Molecular imaging」「High Field MRI」「Cardiac MRI」とあり、非常に興味深いカリキュラムが組まれていたからである。また、スタンフォード大学には 2005 年から 7T-MRI が設置されており、これまで 5 年間の研究成果を習得したいというのもあった。

期待と不安が交錯する中、初日の講義が始まった。講師は Michael Moseley 先生であり、講義開始後早くも 5 分で Moseley 先生の世界に引き込まれた。Moseley 先生のプレゼンテーションは Fantastic and Exciting であり、これからどのような講義が始まるのだろうと聴講している私の胸は高揚した。

ルーカスセンターでの研修が終わると宿泊先でミーティングがあり、日本各地から集まった方たちとのディスカッションが非常に有意義な時間であった。全体ディスカッションのテーマは「アメリカと日本の医療制度の違いと問題点」、またグループディスカッションでは、「これからの技師教育」や「技師の地位を向上させるための方法」などそれぞれのテーマについて意見を交わし夜遅くまで議論した。最近、日本の研修会でもグループディスカッションを取り入れている光景が散見されるが、アメリカでは学校教育にディスカッション形式の授業を取り入れた人材育成がおこなわれているようで、学生時代に「他人の意見を尊重しながら自分の意見を主張する」といったヒューマンコミュニケーションを学べる環境は大変すばらしいと感じた。

研修3日目、心待ちにしていた 7T-MRI の見学をし、その中で頭部の撮影をして頂くという貴重な経験をした。dB/dt の関係上、中に入るテーブルの早さは非常にゆっくりであり、中に入るにつれてかすかな耳鳴りを感じた。300MHz もの RF パルスが照射されるという不安の中、撮影が開始され、3T よりも大きな騒音とコイルの振動で大きなエネルギーの負荷を体感し感動であった。撮影後、自分の脳の T2 強調スピンエコー画像と T1 強調グラディエント画像を見せて頂きながら、担当の放射線技師に 7T-MRI の問題点やこれからの課題を伺った。自身、MRI を専門にしているということもあり、用意していた質問やその場で感じた疑問等を投げかけたが、すべてにおいて丁寧に説明して頂き、期待以上の回答を得ることが出来た。

スタンフォード大学での研修は、多くの最新知見とすばらしい世界を体験することができ、充実した 1 週間であった。その中でも一番の収穫は 5 期生の仲間との出会いであると思っている。異国の地で日本と全く違うシステム、医療制度の中、お互いが感じたことを深夜までディスカッションした時間は貴重であり、自身、大きく成長させてもらったと感じている。今後、日本でも 5 期生の仲間とさらに親交を深めながら、今回の研修で得た経験を生かす道を模索していきたいと考える。



【写真データ注釈】

宿泊先「Murray House」にて 5 期生がディスカッションしている様子